

令和6年度

地域部活動推進事業に係る実証事業報告会

部活動地域移行における 県外視察について

令和7年2月14日（金）

北部教育事務所秩父支所

秩父地区中学生地域クラブ活動に向けた取組（案）

1 秩父地区中学生地域クラブ活動の取組と目的

【取組の目的】

秩父地区の少子化が進む中、生徒にとって魅力があり、持続可能なスポーツ・文化芸術活動に取り組むことをとおして、心身の豊かな成長と社会性を育む。

- （1）休日において生徒が主体的にスポーツ・文化活動ができる地域環境をつくる。
- （2）生徒がスポーツ・文化活動の楽しさや喜びを実感できる環境をつくり、心身の健全育成を目指す。
- （3）休日の地域クラブ活動は、**社会教育の一環**として多世代との交流・活動の場所となり、地域の特色を活かした活動環境をつくる。（**地域の子供は地域で育てる、地域社会の活性化と魅力向上**）

秩父地区中学生地域クラブ活動に向けた取組（案）

2 秩父地区中学生地域クラブ活動の方向性

**『令和10年度末までに休日の
学校部活動を地域クラブ活動へ可能な限り移行』**

①現在活動している部活動について、種目等に応じて段階的に合同部活動・拠点校部活動を導入する。顧問に加え、地域の指導者等、将来的な運営を担う人材の確保、環境を整備する。

②各地域のスポーツ・文化活動団体との連携・協働を進め、生徒のニーズに応じた活動場所の整備充実を行う。

新潟県県外視察の目的について

新潟県の休日における学校部活動の地域移行の達成時期は、国のガイドラインに基づいて、令和5年～令和7年度末を目途として想定している。

魚沼市では令和6年度4月から、平日、休日が一体となった部活動の地域移行を進め、令和7年度には地域移行完全実施を目指している。

また、長岡市では令和7年9月より休日の部活動は市内一斉に地域クラブ活動へと移行することを進めており、平日は「学校部活動」、休日は「地域クラブ」と環境を整備している。

両市教育委員会共に、先進的に地域移行を進めている取組に関して、現状や課題を知ることによって今後の秩父地区中学生地域クラブの推進に向けて今後の参考とするため。

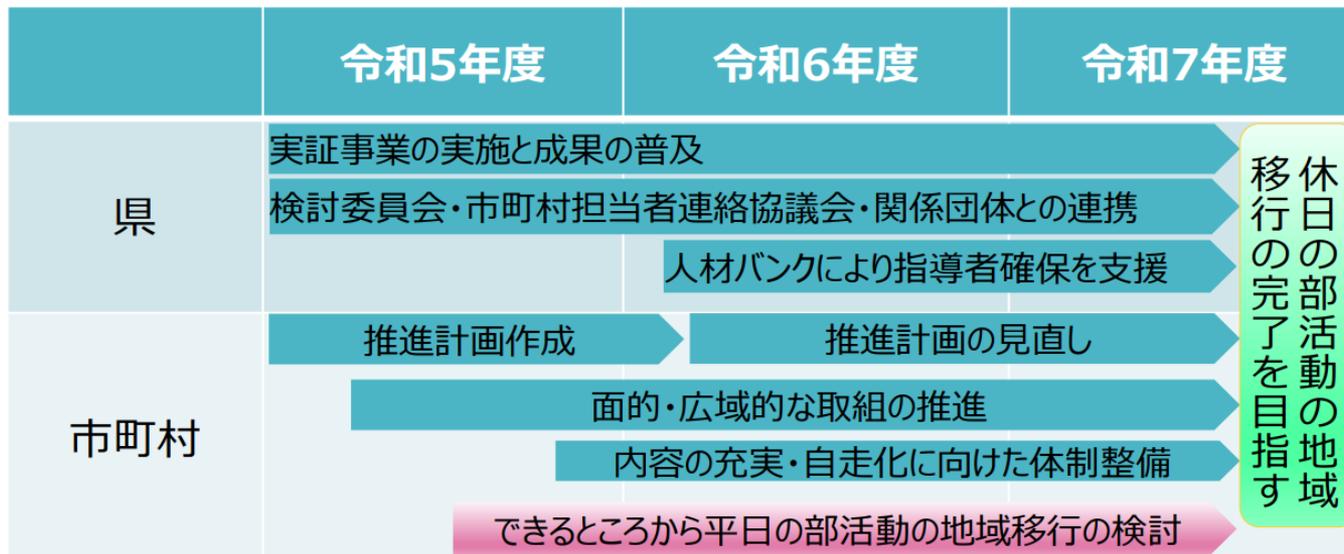
新潟県の改革推進に向けたロードマップ

《参考資料》

新潟県推計人口(令和3年10月1日現在)に見る年齢別推計人数

県全体の年齢別推計人口				
県全体	0歳	5歳	10歳	15歳
人口(人)	12,824	15,697	17,784	18,676
15歳人口に対する割合	68.7%	84.0%	95.2%	

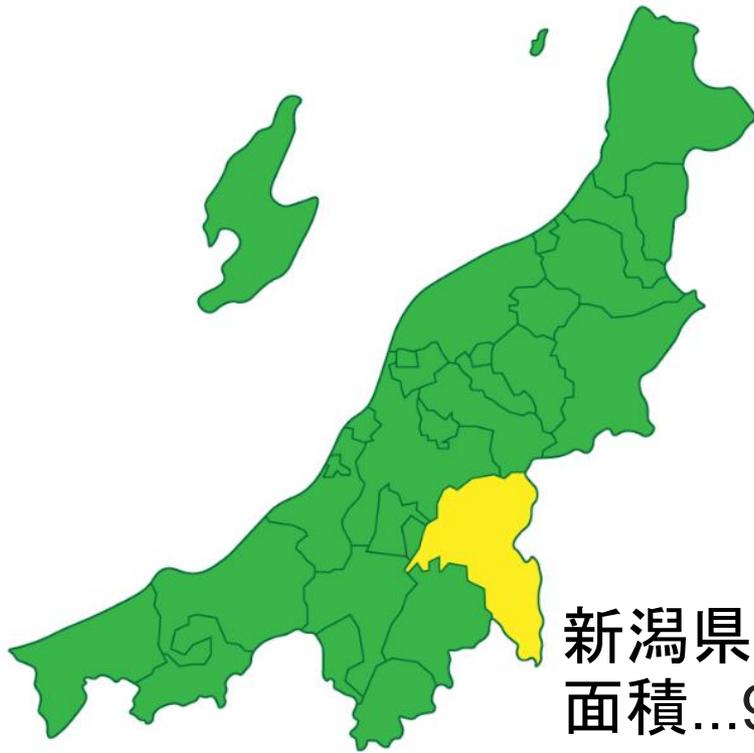
地域スポーツクラブ活動制度設計の手引き(新潟県)



「新潟県における休日の部活動における段階的な地域移行(中学生にとって新しいスポーツ・文化芸術環境の構築)の方針」ロードマップ(R5年. 3月)

スポーツ庁HP・部活動ポータルサイト令和5年度の取組(新潟県)

魚沼市教育委員会の取組について



新潟県魚沼市（平成16年に6自治体が統合）

面積...946.76 km²

人口...34,483人

小学校 8校（児童数1,363人）

中学校 5校（生徒数 725人）

部活動数 30（内地域クラブ11クラブ）

（令和6年7月現在）

魚沼市教育委員会の取組について

魚沼市教育委員会 学校教育課

地域移行担当指導主事

- ・ 1名配属（令和4年度退職校長（魚沼市中体連事務局））
- ・ 1名事務担当（会計年度職員）

【主な業務内容】

- ・ 地域移行専任担当（令和5年度より）
- ・ 学校やスポーツ協会の調整役
- ・ 指導者の経費（源泉徴収作成等）、研修体制、広報活動（地域移行だよりHP掲載・R5：No.6、R6：No.5発行済）、アンケートの実施、PTA協議会等、法人化に向けて

魚沼市教育委員会の現状について

○県平均よりも進む少子化

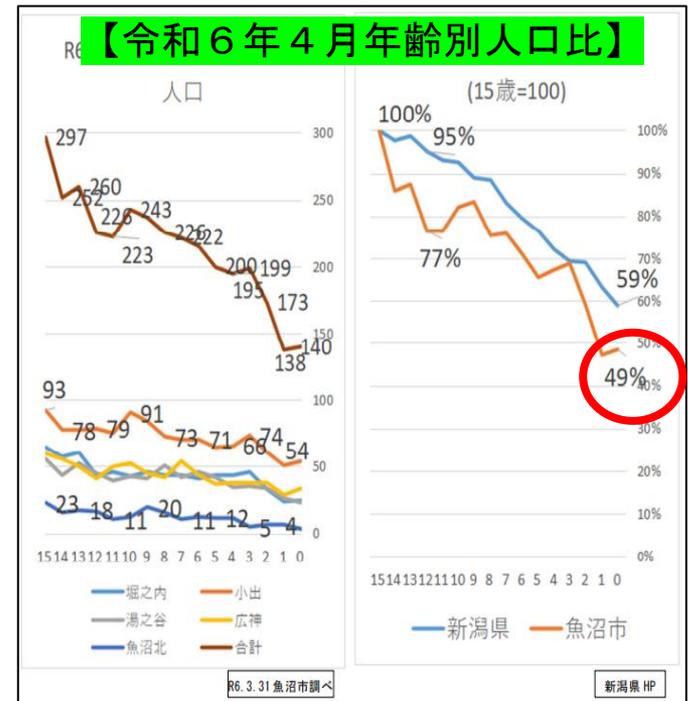
- ・ 生徒数の減少に伴い、学級数、教員数も減少する。
- ・ 少子化のペースは**県を上回っている**。
- ・ 10年後には全校生徒30名の学校が生まれる。

○地元教員の不足

- ・ 市内に自宅をもつ教員が少なく（全体の半数）遠方からの通勤者が多い。（**通勤時間約1時間**）
- ・ 移動サイクルが短く顧問が**短期間（3年）**で変わる。
- ・ 魚沼市は異動希望者が少なく「**教員確保困難地域**」である。

○受皿団体が未成熟

- ・ 現状のスポーツ協会、文化協会、スポーツ少年団、総合型スポーツクラブの活動、経営規模では、新たな地域クラブ運営は困難である。



魚沼市の予想される将来と対応の方向性

【予想される将来】

- 1 各中学校の部活動は成立困難
 - ・ 陸上競技、卓球など**個人種目が中心**となる可能性
 - ・ 野球、バスケットボールの団体種目は**大会ごとに合同チームを編成**
- 2 教員の確保が一層困難
 - ・ 小規模校、遠距離通勤に加えて部活動の顧問をすることは負担が大きく、**魚沼市を希望する教員がさらに減少**する恐れ

【対応の方向性】

- 1 子供たちの「**多様化**」への対応
 - ・ これまでにない種目を希望する子供が増加（アンケート結果より）
- 2 学校、教員頼みの体制からの脱却
 - ・ 学校を越えた広い視野で**地域ぐるみの新たな体制の構築**

魚沼市の方針について

平日、休日が一体となった部活動の地域移行を進め、可能な種目について令和6年度から地域移行を行い、令和7年度中の地域移行完全実施を目指す。

【方針策定の理由】

- 地域移行を休日のみに限定しても、受け入れ団体の見通しが立たない。
- 平日と休日の運営体制が異なることによる生徒や指導者の混乱を防ぐ。（引率、団体種目における監督の指導体制等）
- 少子化の進行により、学校での部活動が実施困難になる前に、中学生が様々な種目に挑戦できる環境を整える。

魚沼市教育委員会の取組について

地域クラブ活動の情報をお知らせします
(小5～中3児童・生徒・保護者及び市内小中学校教職員向け)

魚沼市 地域クラブ活動だより (No.1)

令和6年6月17日
発行 魚沼市教育委員会
学校教育課
TEL: 025-793-7452
FAX: 025-792-1261

「地域クラブ活動」ってなんですか？

これまで何十年にもわたって中学校で行われてきた部活動の問題点を解決するために、文部科学省、スポーツ庁、文化庁が中学生のスポーツや文化芸術活動を学校ではなく、地域の中で行う方針を示しました。これまで学校で行われてきた「部活動」に対して、地域の中で行う新たなスポーツ・文化芸術活動のことを「地域クラブ活動」といいます。

今行われている地域クラブ活動は何がありますか？

昨年「魚沼JBC（ジュニアベースボールクラブ）」が発足し、今年の4月からはさらに9クラブが活動を開始しました。各クラブを紹介します。

【種目】軟式野球
【クラブ名】魚沼JBC（ジュニアベースボールクラブ）
【メンバー】1年19人、2年20人、3年11人、合計50人
【練習日】月・水19:00～21:00、土9:00～12:00
【活動場所】美師球場、広神球場等※雨天時は堀之内中学校体育館等
【連絡先】〇〇さん（〇〇）



●男子バスケットボール
●WHITE PHOENIX（ホワイトフェニックス）
●1年6人、2年8人、3年13人、合計27人
●火・木・金19:00～21:00、土8:30～11:30
●広神中体育館等
●〇〇さん（〇〇）



●女子バスケットボール
●魚沼 BRUINS（ブルーインズ）
●1年3人、2年4人、3年6人、合計13人
●火、水、金18:30～20:30、土8:30～11:30
●広神中体育館、堀之内体育館等
●〇〇さん（〇〇）



●女子バスケットボール
●AMBITIONS（アンビションズ）
●1年9人、2年6人、3年4人、合計19人
●火、木19:30～（小出中）、17:00～（堀之内中）
土8:30～11:30
●小出中体育館、堀之内中体育館等
●〇〇さん（〇〇）



●女子バレーボール
●魚沼米笑娘（こめっこ）VBC（バレーボールクラブ）
●1年6人、2年2人、3年0人、合計8人
●火・木・金18:30～20:30、土8:30～11:30
●広神中体育館等
●〇〇さん（〇〇）



地域クラブ活動の情報をお知らせします
(小5～中3児童・生徒・保護者及び市内小中学校教職員向け)

魚沼市地域クラブ活動だより(No.3)

令和6年9月6日
発行 魚沼市教育委員会
学校教育課
TEL: 025-793-7452
FAX: 025-792-1261

8/3(土)魚沼市PTA連絡協議会研修大会

市PTA連主催で「魚沼市の部活動地域移行」をテーマに研修会が開催されました。東京学芸大学の鈴木聡副学長と新潟県教育委員会部活動改革担当の桑原文博副参事からおいいただき、会場の皆さんの考えをスマートフォンによるリアルタイムアンケートシステムでお聞きしながら行いました。質問と主な回答を紹介します。



スクリーンでアンケート結果をリアルタイムに確認

質問1「部活動地域移行の最も大きな理由は何だと思いますか？」

教員の多忙化・働き方改革：54% 少子化：35% その他：11%
主な記述

- ・子どもの興味に応じて選択肢を広げるために必要
- ・顧問によっては専門でなかったり未経験だったりするのに対して、各種目等で専門的な指導を受けることが可能
- ・教員は異動があるのに対して、地域クラブでは継続した指導を受けることが可能

質問2「魚沼市が進めている部活動地域移行をどう思いますか？」

進め方や方向性にほぼ賛成：86% 進め方や方向性には賛成できない：14%
※「ほぼ賛成」には「やむを得ない」等も含まれています。

主な賛成意見

- ・子どもの減少が続くか学校での部活動が困難になるなら、魚沼市のようにはっきりと方針を決めてくれた方がよい
- ・子どもの減少で学校単位での部活動はすでに無理
- ・団体スポーツや活動（吹奏楽等）を成り立たせるために必要
- ・市外に行かずに市内でできる体制が必要
- ・教員は子どもの学力の向上を、地域は子どもの健全な育成を
- ・時代の流れ、国の方針、少子化等から仕方ない

主な反対意見

- ・送迎ができない家庭では子どもがやりたくても活動に参加できない
- ・受け入れ団体の確保が難しい、地域に指導者がいない
- ・指導員への負担が急が増える
- ・子どもと先生の距離が離れる
- ・教員のやりがいなくなる
- ・運営のための財源確保が不透明
- ・子どもの視点や意見は聞いているのか



研修会参加者の様子

質問3「部活動地域移行での最も大きな不安は何ですか？」

活動場所への移動：36% 活動時間：18% クラブ内トラブルへの対応：14%
指導者の人間性等：10% 用具以外の経費：5% 指導者の専門性：4% その他：14%
主な記述

- ・送迎ができなければ先に進めない、保護者の負担が大きい
- ・市内でも地域によっては参加が困難
- ・活動が放課後から夜になり、子どもの生活パターンが大きく変わる
- ・いじめ対応などは専門性が必要（だから教員が指導をすべき）
- ・人間的指導と技術的指導の両方をするのは難しい

アンケート結果等から、地域移行自体は賛成あるいはやむを得ないと考えている方が多くいる一方で、送迎に対する不安の声が強いことがよくわかりました。教育委員会では、今回の研修大会での回答等も参考にしながら今後の部活動地域移行を進めてまいります。

魚沼市教育委員会の取組について

令和6年度 魚沼市中学校の 部活動&地域クラブ活動



令和6年1月
魚沼市教育委員会

地域クラブ活動の種類

①〔部活動移行型〕

令和5年度に学校に設置されている部活動を地域クラブ活動に移行したクラブ

- ・クラブ代表：1名（運営、統括等）
- ・指導員：2名以上（指導者、日本スポーツ協会指導者資格の取得を目指してもらう）
- ・指導補助員：2名以上（保護者や教員等、見守りや補助、緊急時の対応）
- ・コーディネーター：1名以上（指導計画の作成、指導員や事務局との調整、）

②〔協会連携型〕

協会、少年団、文化協会に加盟して市内中学生が活動している団体のうち地域クラブとなることを希望し、営利を目的としない団体

③〔新規認定型〕

①、②以外で、新たに中学生が活動するために設立された団体で地域クラブとなることを希望し、営利を目的としない団体

魚沼市教育委員会の取組について

※参考①※魚沼市地域クラブ活動実績簿

令和 6 年 6 月												魚沼市地域クラブ活動実績				地域クラブ名	魚沼JBC
日	曜	活動時間帯			時間	指導員		指導補助員		事務局 (○印)	活動場所	活動内容等					
						謝金対象	左記以外	謝金対象	左記以外								
例		9:00	~	12:00	3:00	田中	鈴木、安藤	佐藤	近藤	○	〇〇体育館	練習試合(対△中)、□大会(対◇中)、等					
1	土	8:00	~	16:00	8:00	小川		長壁	五十嵐		聖籠町	第6回オイシックス新潟アルビレックスBC杯					
2	日	8:00	~	16:00	8:00	小川		長壁	五十嵐		胎内市	第6回オイシックス新潟アルビレックスBC杯					
3	月	19:00	~	21:00	2:00	小川	佐藤	長壁	五十嵐		広神球場・薬師グランド	練習					
4	火		~							○							
5	水	19:00	~	21:00	2:00	小川	佐藤	長壁	五十嵐		広神球場・薬師グランド	練習					
6	木		~														
7	金		~							○							
8	土	12:30	~	17:30	5:00	小川	佐藤	長壁	五十嵐		広神球場	練習試合(塩沢中)					
9	日		~														
10	月	19:00	~	21:00	2:00	小川	佐藤	長壁	五十嵐		広神球場・薬師グランド	練習					
11	火		~							○							
12	水	7:30	~	16:30	9:00	小川	佐藤	長壁	五十嵐		出雲崎球場	中体連中越地区予選会					
13	木		~														
14	金		~							○							
15	土	9:00	~	12:00	3:00	小川	佐藤	長壁	五十嵐		広神球場・薬師グランド	練習					
16	日		~														
17	月	19:00	~	21:00	2:00	小川	佐藤	長壁	五十嵐		広神球場・薬師グランド	練習					
18	火		~							○							
19	水	7:30	~	16:30	9:00	小川	佐藤	長壁	五十嵐		三条パールスタジアム	中体連中越地区代表決定戦					
20	木		~														
21	金		~							○							
22	土	9:00	~	12:00	3:00	小川	佐藤	長壁	五十嵐		月岡公園	練習					
23	日		~														
24	月	19:00	~	21:00	2:00	小川	佐藤	長壁	五十嵐		広神球場・薬師グランド	練習					
25	火		~							○							
26	水	19:00	~	21:00	2:00	小川	佐藤	長壁	五十嵐		広神球場・薬師グランド	練習					
27	木		~														
28	金		~							○							
29	土	9:00	~	12:00	3:00	小川	佐藤	長壁			越路球場	練習試合(東北中)					
30	日		~														
					平日回数	8	平日累計	24	休日回数	6	休日累計	18	累計時数	102	←上限280h(卓球は120h) ※実際のカウントは6月~1月		

魚沼市教育委員会の取組について

※参考②※魚沼市地域クラブ活動実績簿

業務月報

作成日 2024年7月25日 スポーツ指導月報も本紙を使用できます。

クラブ名 **指導補助員** 代表 事務局

氏名 氏名 役職 指導補助員

令和6年6月分		合計時間	60進法	17:00	時間単価	1,000	対象金額	
		10進法	17.00	合計金額	17,000			
6月1日(土)	【勤】 9:00 ~ 15:00 【休】 12:00 ~ 13:00 【除】 13:00 ~ 15:00 計	6:00 1:00 2:00 3:00	10進法	6.00 1.00 2.00 3.00	勤務場所	燕中学校	業務内容 ・出席確認 ・用具準備補助 ・試合準備補助 ・体調不良生徒の対応、保護者連絡	3,000
6月4日(水)	【勤】 18:30 ~ 20:30 【休】 ~ 【除】 ~ 計	2:00 0:00 0:00 2:00	10進法	2.00 0.00 0.00 2.00	勤務場所	堀之内体育館	業務内容 ・出席確認 ・用具準備及び片付け補助 ・体調不良生徒の対応、保護者連絡及び引き渡し	2,000
6月5日(木)	【勤】 18:30 ~ 20:30 【休】 ~ 【除】 ~ 計	2:00 0:00 0:00 2:00	10進法	2.00 0.00 0.00 2.00	勤務場所	広神中学校	業務内容 ・出席確認 ・用具準備及び片付け補助 ・体調不良生徒の対応、保護者連絡及び引き渡し	2,000
6月7日(土)	【勤】 18:30 ~ 20:30 【休】 ~ 【除】 ~ 計	2:00 0:00 0:00 2:00	10進法	2.00 0.00 0.00 2.00	勤務場所	堀之内体育館	業務内容 ・出席確認 ・用具準備及び片付け補助 ・体調不良生徒の対応、保護者連絡及び引き渡し	2,000
6月9日(日)	【勤】 8:30 ~ 11:30 【休】 ~ 【除】 ~ 計	3:00 0:00 0:00 3:00	10進法	3.00 0.00 0.00 3.00	勤務場所	広神中学校	業務内容 ・出席確認 ・用具準備及び片付け補助 ・体調不良生徒の対応、保護者連絡及び引き渡し	3,000
6月11日(火)	【勤】 8:30 ~ 16:00 【休】 ~ 【除】 ~ 計	7:30 0:00 0:00 7:30	10進法	7.30 0.00 0.00 7.30	勤務場所	春日町	業務内容 ・出席確認 ・用具準備及び片付け補助 ・体調不良生徒の対応、保護者連絡及び引き渡し	0
6月12日(水)	【勤】 8:30 ~ 16:00 【休】 ~ 【除】 ~ 計	7:30 0:00 0:00 7:30	10進法	7.30 0.00 0.00 7.30	勤務場所	春日町	業務内容 ・出席確認 ・用具準備及び片付け補助 ・体調不良生徒の対応、保護者連絡及び引き渡し	0
6月14日(金)	【勤】 18:30 ~ 20:30 【休】 ~ 【除】 ~ 計	2:00 0:00 0:00 2:00	10進法	2.00 0.00 0.00 2.00	勤務場所	春日町	業務内容 ・出席確認 ・用具準備及び片付け補助 ・体調不良生徒の対応、保護者連絡及び引き渡し	2,000
6月15日(土)	【勤】 8:30 ~ 11:30 【休】 ~ 【除】 ~ 計	3:00 0:00 0:00 3:00	10進法	3.00 0.00 0.00 3.00	勤務場所	春日町	業務内容 ・出席確認 ・用具準備及び片付け補助 ・体調不良生徒の対応、保護者連絡及び引き渡し	3,000

可処分時間より具体的に把握的に記載願います。

会計検査院から、報告した業務内容が委託事業に従事しているのか判断できない事例が散見される旨の指摘を受けています。

については、資料作成、経理処理といった一言だけの記載ではなく、資料作成であれば何の資料をどのように作成したのか、経理処理であればどのような経理の処理を行っているのかを明確に記載願います。

◎ 記載例

【勤】→勤務した時間
【休】→休憩時間
【除】→除外する時間

コーディネーター（事務局）は週1回2時間を基本とします。（年間40回）
※指導員、補助員と業務の場合は、時間が重複しないように。

休憩時間、除外時間により、1日あたりの時間を平日2時間、休日3時間としてください。

重要!

※休業時間や除外する時間が、1日のうち、何度もある場合は両方を追加したくどととし、「計」の計算式を修正願います。

※休業時間や除外する時間が、1日のうち、何度もある場合は両方を追加したくどととし、「計」の計算式を修正願います。

※休業時間や除外する時間が、1日のうち、何度もある場合は両方を追加したくどととし、「計」の計算式を修正願います。

業務月報

作成日 2024年7月25日 スポーツ指導月報も本紙を使用できます。

クラブ名 **コーディネーター** 代表 事務局

氏名 氏名 役職 コーディネーター

令和6年6月分		合計時間	60進法	8:00	時間単価	1,000	対象金額	
		10進法	8.00	合計金額	8,000			
6月3日(月)	【勤】 18:00 ~ 20:00 【休】 ~ 【除】 ~ 計	2:00 0:00 0:00 2:00	10進法	2.00 0.00 0.00 2.00	勤務場所	自宅	業務内容 ・5月分指導実績整理 ・指導員、指導補助員に練習等出席予定の確認 ・地区大会、練習試合等参加計画作成 ・生徒所属校に大会等参加計画の送付 ・生徒所属校に行事予定等を確認	2,000
6月10日(月)	【勤】 18:00 ~ 20:00 【休】 ~ 【除】 ~ 計	2:00 0:00 0:00 2:00	10進法	2.00 0.00 0.00 2.00	勤務場所	自宅	業務内容 ・指導員、指導補助員に練習等出席予定の確認 ・5月分指導実績整理 ・練習試合参加計画作成 ・7月練習予定作成	2,000
6月17日(月)	【勤】 18:00 ~ 20:00 【休】 ~ 【除】 ~ 計	2:00 0:00 0:00 2:00	10進法	2.00 0.00 0.00 2.00	勤務場所	自宅	業務内容 ・指導員、指導補助員に練習等出席予定の確認 ・生徒所属校に大会結果連絡 ・7月練習予定の連絡	2,000
6月24日(月)	【勤】 18:00 ~ 20:00 【休】 ~ 【除】 ~ 計	2:00 0:00 0:00 2:00	10進法	2.00 0.00 0.00 2.00	勤務場所	自宅	業務内容 ・指導員、指導補助員に練習等出席予定の確認 ・生徒所属校に大会結果連絡 ・県大会参加計画作成 ・7月練習予定の連絡	2,000
6月25日(火)	【勤】 ~ 【休】 ~ 【除】 ~ 計	0:00 0:00 0:00 0:00	10進法	0.00 0.00 0.00 0.00	勤務場所	春日町	業務内容 ・出席確認 ・用具準備及び片付け補助 ・体調不良生徒の対応、保護者連絡及び引き渡し	0
6月26日(水)	【勤】 ~ 【休】 ~ 【除】 ~ 計	0:00 0:00 0:00 0:00	10進法	0.00 0.00 0.00 0.00	勤務場所	春日町	業務内容 ・出席確認 ・用具準備及び片付け補助 ・体調不良生徒の対応、保護者連絡及び引き渡し	0
6月27日(木)	【勤】 ~ 【休】 ~ 【除】 ~ 計	0:00 0:00 0:00 0:00	10進法	0.00 0.00 0.00 0.00	勤務場所	春日町	業務内容 ・出席確認 ・用具準備及び片付け補助 ・体調不良生徒の対応、保護者連絡及び引き渡し	0
6月28日(金)	【勤】 ~ 【休】 ~ 【除】 ~ 計	0:00 0:00 0:00 0:00	10進法	0.00 0.00 0.00 0.00	勤務場所	春日町	業務内容 ・出席確認 ・用具準備及び片付け補助 ・体調不良生徒の対応、保護者連絡及び引き渡し	0
6月29日(土)	【勤】 ~ 【休】 ~ 【除】 ~ 計	0:00 0:00 0:00 0:00	10進法	0.00 0.00 0.00 0.00	勤務場所	春日町	業務内容 ・出席確認 ・用具準備及び片付け補助 ・体調不良生徒の対応、保護者連絡及び引き渡し	0

可処分時間より具体的に把握的に記載願います。

会計検査院から、報告した業務内容が委託事業に従事しているのか判断できない事例が散見される旨の指摘を受けています。

については、資料作成、経理処理といった一言だけの記載ではなく、資料作成であれば何の資料をどのように作成したのか、経理処理であればどのような経理の処理を行っているのかを明確に記載願います。

魚沼市教育委員会の取組について

※参考③※保護者、地域、指導者に向けた研修の開催

魚沼市スポーツ指導者養成講座

楽しく効果的な スポーツ指導のヒント

～体験やいじめの対策、チームづくりのヒント～

全国的な部活動地域移行の中で、地域の指導者が中学生のスポーツ指導を行う機会が増えることが予想されます。この講座では、部活動地域移行の背景に触れながら、「楽しく」「効果的な」キーワードにしつつ、具体的なチーム運営やチーム内でのいじめ等のトラブル対応や未然防止、地域指導者が身に付けておきたいこれらのスポーツ指導に必要な資格が得られます。

講師の鈴木氏は、中学校教諭の経験をもとに、現在、東京学芸大学の副学長として体育指導や教育性を専門に学術を指導しています。東京都部活動検討委員や八王子市のいじめ問題対策委員会委員長としても活躍されており、その経験も踏まえたお話を聞かせていただきます。

本講座は、スポーツ指導だけでなく、中学生のお子さんを持つ保護者にもぜひお聞きいただきたい内容です。



講師
東京学芸大学
副学長・博士(教育学)・教授
鈴木 聡氏
プロフィール
1967年生まれ。私立小学校、東京学芸大学附属諸国高等学校教諭を経て、2012年より現職。専門は教育政策、教育心理学、文部科学省小学校学習指導要領実践検討会議部活動分科委員、スポーツ庁小学校体育「運動領域」指導の主任委員等。主な著書は「思考力を高める体育授業プラン」(教育実習)、「コアカリキュラムで学ぶ教育心理学」(現職)、「共創」など。令和5年度東京都部活動検討委員会委員長、令和5年度八王子市いじめ問題対策委員会委員長

日時 令和6年 **3月15日(金)**
19:00～20:30(18:30開場)

会場 魚沼市地域振興センター
コンベンションホール

対象 スポーツ少年団指導者
地域クラブ指導予定者
部活動指導員 市民
小中学生保護者 教員

定員 100名

申込 3月7日〆切

お申し込みは
こちらから
<https://forms.gle/6S9vPmJ5A4h25Y6>

主催：魚沼市教育委員会
主幹：魚沼市スポーツ協会・魚沼市スポーツ少年団 TEL:025-794-6074
後援：エンジョイスportクラブ魚沼

令和6年度 魚沼市PTA連絡協議会研修大会

今なぜ部活動地域移行なのか

～子ども、保護者、教員にとってよい形を探る～

新潟県教育庁 保護体育課 課長 齋藤 昌典 副参事 桑原 文博

東京学芸大学 副学長・博士(教育学) 教授 鈴木 聡

魚沼市教育委員会 学校教育課 指導主事 柳沢 学

「中学校に行ったら部活動に入ろうか」と多くの人が部活動への関心を喚ぶまでには至りませんでした。ところが、数年前から「部活動地域移行」の名の下に、生徒たちの活動は徐々に地域へ移り始めています。「どうして、中学校から部活動がなくなってしまったのか」、「希望する部活動移行の方向は正しいのか?」「地域の活動になることに何の特長はないのか?」の3点を軸とし、上記3氏の意見交換と参加者からの意見交換を交えて、魚沼市の子どもたちのために必要な部活動地域移行のあり方を探ります。

日時:令和6年8月3日(土)
13:30～15:30(13:00開場)
会場:小出輝文化会館 小ホール
定員:140名
対象:小中学校保護者、教職員、
部活動・地域クラブ・
スポーツ少年団等指導者
部活動地域移行に関わりや
関心のある方
申込:7月19日(金)締切

お申し込みは
こちらから
<https://forms.gle/6R1LQdUc8V222k>

●主催：魚沼市PTA連絡協議会
●後援：魚沼市教育委員会、魚沼市スポーツ協会、魚沼市文化協会
●協賛：星之内地区PTA連絡協議会
●お問い合わせ先：研修大会事務局 魚沼市立星之内中学校 TEL:025-794-2127

令和6年度スポーツ指導者養成講座 魚沼市スポーツ協会20周年記念

育成世代の指導者に対して バスケットボール界で取り組んでいること

～包摂型が注目を集めている理由を探る～

講師：山本 明氏

期日:令和6年10月17日(日)
時間:18:45～20:30
(開場18:15)
会場:小出輝文化会館 小ホール

定員:100名
申込:10月15日〆切

無料

山本明氏プロフィール
1963年生まれ。元バスケットボール選手。日本バスケットボール協会指導者養成コース4期生。元バスケットボール選手としてバスケットボール界で活躍。現在はバスケットボール指導者として、バスケットボール指導者養成コース4期生として指導者養成に貢献。現在はバスケットボール指導者として、バスケットボール指導者養成コース4期生として指導者養成に貢献。

「地域クラブ活動」に求められること

講師：石川智雄氏

「知ってほしい! 成長期の食事と栄養学」

講師：山岸美恵子氏

期日:令和6年11月28日(日)
時間:19:00～20:30(開場18:30)
会場:小出輝文化会館 小ホール

定員:100名
申込:11月25日〆切

無料

山岸美恵子氏プロフィール
1963年生まれ。元バスケットボール選手。現在はバスケットボール指導者として、バスケットボール指導者養成コース4期生として指導者養成に貢献。現在はバスケットボール指導者として、バスケットボール指導者養成コース4期生として指導者養成に貢献。

主催:魚沼市教育委員会 後援:エンジョイスportクラブ魚沼 問合せ:魚沼市スポーツ協会 025-794-6074

①学芸大教授(いじめ対策委員会)による楽しく効果的なスポーツ指導

②PTA合同研修会において「なぜ部活動地域移行なのか」

③日本バスケットボール協会「育成世代の指導」及び栄養学や地域クラブ活動に求められること

魚沼市の地域クラブ活動の課題について

①指導者の研修について

- ・ 学校部活動のように**職員研修等**で当たり前前にできていたことができない。
(体罰防止、ケガ、熱中症、生徒同士の人間関係)
- ・ 指導者、保護者等誰でも参加できる**専門家による研修の実施**

②予算について

- ・ 令和6年度の予算は1千万円、一つのクラブ謝金は80万円(12団体)、謝金は1時間1,600円としている。・ 次年度は2千万円を検討中である。

③送迎について

- ・ 保護者送迎の負担が大きい。(平日、休日共に送迎、遠征等)
- ・ アンケートでも「**最も大きな不安**」は**移動手段である**。
- ・ 来年度の予算に送迎は組み込んでいる。期間限定の送迎バスと予算とルートは検討中である。**利用者数は少数であることが予想される**。

④受皿の確保について

- ・ スポーツ協会は会計年度職員1名、**新たなクラブの創設が困難**である。
- ・ 人手不足で**財務処理等まで追いつかない**。法人化を目指している。

魚沼市の地域クラブ活動の課題について

⑤【保護者アンケートについて（中学校）】

- ・ チームのレベルが向上した。専門的な指導者から指導を受けられる。
- ・ 指導者は生徒一人一人を差別せず、平等に指導してもらいたい。
- ・ 地域移行により教員の負担がいかに大きいかわかった。学校との関わりをなくしてほしくない。
- ・ 今後の方向性が不明瞭なため、不安である。選択肢を増やしてほしい。
- ・ 低所得者にとっては厳しい。送迎を保護者に押し付けるのもおかしい。
- ・ 日々の生活で精一杯の世帯があることを忘れないで、制度設計をしてほしい。

【生徒アンケート結果】

- ・ 他校の人と関わって楽しい。コミュニケーション能力が高まった。
- ・ 大会が終わっても引退せずに継続できるのでうれしい。
- ・ 指導者から専門的なことを教えてくれる。
- ・ 練習時間を長くしてほしい。練習日を増やしてほしい。
- ・ 活動時間が夜のため生活リズムが乱れてしまう。

【教員アンケート結果（中学校）】

- ・ 教職員の負担は減少していると感じる。
- ・ 人間関係のトラブル等が心配である。
- ・ コーディネーターの報告書の作業が非常に大変である。

魚沼市の地域クラブ活動の課題について

⑤受皿の確保について

- ・ スポーツ協会は会計年度職員 1 名、**新たなクラブの創設が困難**である。
- ・ 人手不足で**財務処理等まで追いつかない**。法人化を目指している。

⑥広報活動について

- ・ HPにも「地域移行だより」を掲載しているが、**認知度が低い**。
- ・ 校長会でも毎月伝えているが、**実際は校長で止まっていることが多く、先生方に伝わっていない**。紙ベースで伝えている。

⑦県や国に求めることについて

- ・ 補助金の制度であれば、お金を渡すだけだが、**委託になると契約や業務内容の手続きが出てくる。補助金制度だと助かる**。
- ・ 問題としていることが後からわかる。法人化や源泉徴収等について。県からも早く情報提供をしてもらいたい。

⑧文化芸術活動について

- ・ 文化団体は**高齢の方が多いが、一方で中学生を受け入れてくれる団体もあり、文化芸術を広げるチャンス**として伝えている。
- ・ 吹奏楽と、合唱は来年 4 月に開設予定である。**学校施設でない活動場所を検討中である**。
- ・ 現状は税務処理で手間がとられ、まずはスポーツ団体から整備中。

長岡市教育委員会の取組について



新潟県長岡市

(平成22年に10自治体が統合)

面積...891.05 km²

人口...266,936人

小学校 54校 (児童数11,793人)

複式学級 12校

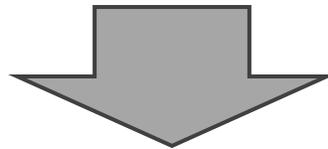
中学校 27校 (生徒数 6,457人)

特支 2校

長岡市の地域クラブ活動の体制について

- ・「部活動の体制の維持」について平成29年から校長会等で懸念していた。
- ・H30部活動ガイドラインで活動時間が減り、競技を高めたい生徒のニーズに答えられていないといった現状があった。

国から委託事業の依頼



市内全小中学校へアンケートを実施

○令和元年スポーツ活動推進モデル事業がスタート（受益者負担）実際にはR2からスタート

※競技団体主体で中高の教職員を中心に、スポーツ競技団体と関係者のつながりを持つことが重要であると考えた。人的支援を進めていった。

【課題】

- ◆男女それぞれ運動部活動から選べる部活が一種目しかない学校は男子3校、女子2校。一方で10から選べる学校は男子2校、女子3校で、選択肢の不公平がある。
- ◆1番の課題は送迎、12月からの冬場の送迎が課題である。

長岡市の地域クラブ活動の学校の現状

- 新潟県では令和4年に意向調査を実施済み（兼職兼業、指導競技種目、指導を希望する市町村、報酬等）**長岡市の兼職兼業を希望する教員は30%、その後は15%まで落ちている。**
- 教員の志望者数が激減している。まずは**義務教育を守ることが優先、教育の質を確保することが行政の役割**である。
- 退職教員に声をかけ、臨時的任用講師を毎日電話でお願いしているのが現状である。
- 令和2年から年2回、校長会を開催。「職員研修で地域クラブ活動について」説明したかと問うと、**ほとんどの学校が対応していない。**

長岡市の地域クラブ活動の周知・啓発について

- ・ **教頭会で周知啓発**を行っている。「皆さんが校長の時には必ず地域移行になっている」と伝えている。
- ・ 令和6年度新入生2,000人を対象とした地域クラブ活動の説明会を実施（2日間の開催で**50人**）
- ・ 長岡市教委として、**教職員、児童生徒、保護者向けに地域移行に関する内容の共通理解を図るための配布物**を作成済。

各種説明資料の活用について

【教員用】

4月1日の職員会議等で長岡市の方針についての**教職員の共通理解**を図る。全職員は生徒、**保護者から質問があったら説明**ができるようにする。

【生徒用】

部活動体験入部の期間に配布する。新1年生、2年生は夏休み明けから、休日の部活動は地域クラブ活動に代わることを前提に、入部について考えさせる。

【保護者】

入学式後、PTA総会等で説明後に、保護者とお子さんが十分に相談できるように配慮して配布し、学校部活動への参加についての選択ができるようにする。

長岡市の地域クラブ活動の周知・啓発について

【教員用】

〔教員用〕

部活動と地域クラブ活動の今後について

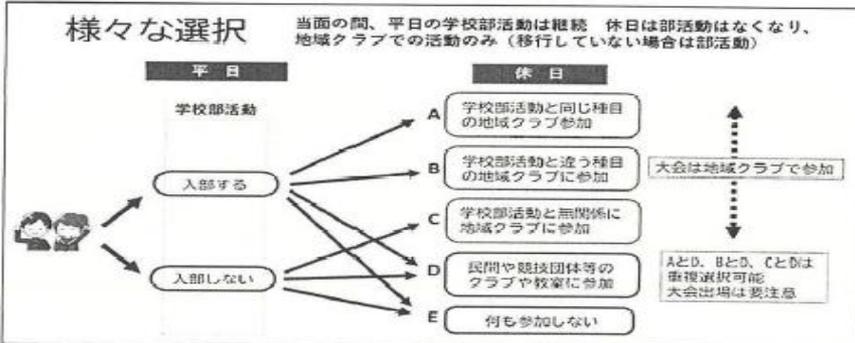
長岡市は、休日の部活動を市内一斉に「地域クラブ活動」に移行する計画で準備を進めています。令和6年度入学の1年生が、中学2年生の夏休み明けから、休日の部活動はなくなり、地域クラブ活動が開始されます。従って、学校部活動は平日のみの活動となります。ただし、令和7年度中は部活動と地域クラブ活動の引継ぎ期間とし、教員の皆様には指導や引継ぎにご協力をお願いします。令和8年度の4月以降の休日の指導は完全希望する方のみとなります。

平日の部活動は当面の間、これまで同様実施します。長岡市では、次期学習指導要領改訂時の部活動の記載内容を確認しながら、令和8年以降に検討を開始する予定です。

休日の地域クラブ活動は、現状の学校部活動と同じく自由加入制となります。従って、地域クラブ活動発足以降も平日、休日ともに希望参加となります。

令和7年の5月に、地域クラブへの参加希望調査をします。
(令和6年の5～6月頃、中学1年生に参加希望の予備調査を行います)

生徒の令和7年9月以降の参加の選択方法は概ね次のようになります。



注意…Dを選択した場合、中体連大会の出場に関しては審査による

中体連大会等への参加を希望する場合は、地域クラブへの加入が原則です。平日も休日も、大会の参加は、休日の地域クラブでの参加が原則となります。これは、新潟県の「地域移行完了後は、原則休日の部活動は行わないこと」という方針に基づいたものです。(完了とは各学校の各部単位)

【新入生用】

〔新入生用〕

部活動と地域クラブ活動について

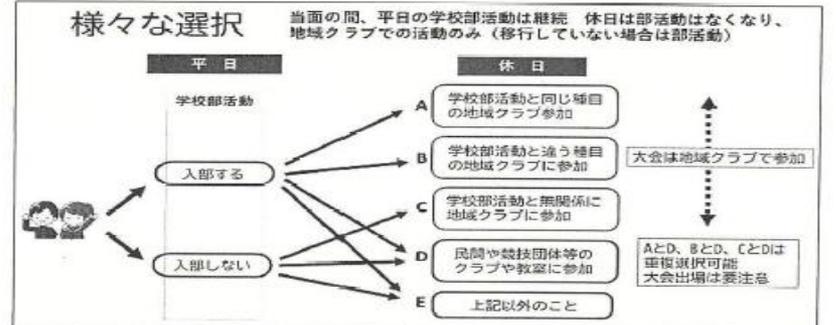
長岡市の中学校では、令和7年の9月頃(皆さんが中学2年生の夏休み明け)から、休日の「部活動」がなくなり、休日の「地域クラブ活動」が始まります。

地域クラブ活動は、

- ①希望する人が参加します。
- ②基本的に、複数の学校の生徒と一緒に活動します。
- ③自分の学校以外で活動する場合もあります。
- ④参加費が必要になります。(金額は来年度決定します)

平日の部活動は当面の間、今までどおり学校で実施されます。平日の部活動も自由加入制ですが、休日の地域クラブ活動も自由加入制です。平日の大会も、休日の大会も、休日の地域クラブでの参加が原則となります。

皆さんの部活動参加の選択方法は概ね次のようになります。



注意…Dを選択した場合、中体連大会の出場に関しては審査による

中体連大会等への参加を希望する場合は、地域クラブへの加入が原則です。令和7年の5月に、地域クラブへの参加希望調査をします。
(令和6年の5～6月頃、参加希望の予備調査を行います)

地域クラブの種目(令和7年度開始時)

陸上競技、水泳競技、バスケットボール、サッカー、軟式野球、体操競技
バレーボール、ソフトテニス、卓球、バドミントン、ソフトボール、柔道、剣道
吹奏楽、合唱、美術

「地域クラブ活動」以外の様々な活動については、5月以降準備が出来次第、順次「こめぶら」に情報が掲載されます。希望する場合は保護者と相談し、各自で申込んでください。

長岡市の社会教育担当者の視点より

- まず、**第一**に考えるのは**教員の志望者数の減少**である。**義務教育の低下は国力の低下**にもつながると考える。
- 自身が考える地域移行の目的は教員という職業の魅力を高めて、指導者を増やしていくこと。働き方改革である。①教育委員会として**部活を廃止**する。②代わりに社会教育として代替りの活動の場を作ること。
- **部活動**は様々な人が**競技や文化芸術に親しむための入り口**である。なくなれば**競技人口、愛好者が減る**。**スポーツ振興や文化芸術振興の妨げ**となってしまう。

子供たちが様々な種目を選べる環境



様々な種目の愛好家、競技人口の増加

部活動の枠組みが外れたことで、
様々な団体の競技人口を増やす**チャンス**がある。

長岡市の生涯学習担当者の視点より

- ・文化は令和4年に検討委員会、令和5年から本格的に始動した。
- ・文化団体特有の課題、楽器の移動、場所の確保、地域特有のお祭り等の様々な文化資源があり、簡単にまとめることができない。
- ・生涯学習や社会教育担当の課の職員が担当の押し付け合いをしていた。芸文は言われたらやるが、代わりにお金と人を要求する意向が強いと感じる。

子供たちの生き生きと活動している姿を共有



市役所の職員、それぞれの立場の人たちへの理解促進

- 「**学校の変化だけでなく地域の変化**」でもある。
- 吹奏楽団、音楽会の講師へ指導者の育成をお願いしながら、学校の音楽の先生、**地域の方との交流**を図るきっかけとなる。
- 学校のセキュリティや管理方法の検討、**譲り合いながら使用方法の検討**を進めている。
- 学校には**施設や楽器の貸し出し**を、また**指導の連携**について依頼している。

長岡市地域クラブ活動の今後の方向性

- ・新潟県では令和7年度末までに休日の部活動を移行完了する事となっている。できない場合は計画書を作成して県に提出し見通しを持つこととなっている。
- ・どこにいても種目ごとにエリアを分けて一番身近な所でいろんな活動を選べるように進めている。
- ・近隣市町との連携を令和3年度から協議している。市町村が税金を使ってそれぞれの制度を設計しているので簡単にはいかない。周辺部は近隣の市町の方が近い。
- ・部活動ではなくジュニア環境活動検討委員会としている。現在スタートは中学生だが、対象を小学生からの年齢に拡大することを目指している。
- ・長岡市は制度設計をした。代わりにエリアごとのどの種目はどのような学校割でやるかは、現場の先生方へ当事者意識を持たせて任せている。
- ・保護者や指導者の意識改革、地域クラブ活動の捉え方を変えていく事。一時の勝利至上主義のための活動にならないような認識も必要である。

秩父地区中学生地域クラブ活動に向けての助言等

- ・積極的にやらなきゃいけないと思っていることについて、周りに合わせて遅れてしまうといったことがないようにできるとよい。
- ・受益者負担では安く参加できるように市費を投じて運営をするスタンスが多いので、**十分に検討**したほうが良い。
- ・受ける側は「委託されているからやっている」となると**自分事にならない**。市から言われると受け身になるので、意識の変革に時間を要してしまう。
- ・部活動という言葉が障害になるので部活動の地域移行ではなく「**休日の部活動の廃止と新たな地域クラブ活動の創設**」といった形がよいのではないかな。
- ・地域移行についての理解を深め、**社会教育や生涯学習担当者の密な連携**が必要である。
- ・「市がやらなければならない」であると、**いつまでたっても官から民に移行できない**。はじめから民でやるという形が良い。**最後まで補助金を出し続けることになる**。

秩父地区中学生地域クラブ活動に向けての助言等

- ・秩父市に環境を整備してもらい、そこに近隣の市町の子供たちも参加できるというのが良いではないだろうか。
- ・**制度設計**を作成する。それぞれの町でできることを示してもらおう。
- ・まずは部活動にある種目を先に行う。その後ない種目を民間クラブを入れて、プランニング等を行う。
- ・**コーディネーター**は退職した校長先生で理解のある人と協力できるとよい。
- ・新潟県は県の**校長会長と中体連の会長が兼務**している。以下会長の言葉より。
「そもそもこの問題、教育委員会は土日に活動しろなんてことは言っていない。大会をやれとも言っていない。これまでは教員の立場から大会や土日の活動を行ってきたのです。なのにそこをやめる時だけ行政がなんとかしてくれとしていってくるのはおかしい。**学校は自分事として何ができるのかを考えなくてはいけない。**」

県外視察をとおして(魚沼市・長岡市)

- ・ 先進的に進めている両市教育員会は、県の指針が明確に示されたうえで、**課内の体制整備、生涯学習や社会教育と連携**して進められている。
- ・ 生徒・保護者や指導者、地域住民に地域移行について**周知・理解の難しさ**を知ることができた。地域移行に対する耐性を計画的に進めていく事が必要である。事務局としてできることは、学校の**先生方へ情報提供や職員研修、中体連専門委員会や教頭会**といった先生方が集まる場所での周知啓発を進めていく事も必要であると感じた。
- ・ 秩父地区の「地域クラブ」は何をもって「地域クラブ」というのか**「地域クラブの定義・要件」**について示していく事が必要である。
- ・ 秩父地区の少子化はこれからますます進んでいく。**義務教育の質を確保するためにも教師の魅力を高め、働きやすい環境を整備する事、子供たちの活動機会を奪わずにスポーツ・芸術文化の振興に寄与すること**、この両輪を進めていくためには、地域全体で考えていかなければならない喫緊の課題であることを再確認できた。

NIIGATA地域移行(地域展開)シンポジウム

(令和7年1月24日朱鷺メッセにて)

テーマ:部活動地域移行(地域展開)の**いちばんの課題**は何か?

登壇者



西原 康行 氏

新潟医療福祉大学
副学長 教授
新潟県部活動改革検討
委員会 座長



渡邊 優子 氏

NPO法人希楽々
理事長ゼネラルマネージャー
村上市スポーツ推進委員
地域スポーツクラブ活動
アドバイザー



代田 昭久 氏

一般社団法人未来地図
代表理事
前長野県飯田市 教育長
イマチャレ製作委員会
実行委員

モデレーター

石川 智雄 氏

長岡市教育委員会
学校教育課
部活動地域移行担当課長
地域スポーツクラブ活動
アドバイザー



澁谷 健一 氏

公益財団法人
新潟県スポーツ協会
スポーツ推進課長
地域スポーツクラブ活動
アドバイザー



令和7年1月24日(金)

場所:新潟市朱鷺メッセ

参加者:98名

参加地域:北海道、山形県、新潟県、福島県、群馬県、埼玉県、茨城県、栃木県、千葉県、富山県、福井県、京都府、兵庫県、香川県、福岡県(15道府県)



NIIGATA地域移行(地域展開)シンポジウム

(令和7年1月24日朱鷺メッセにて)

「全国の進捗状況・来年度に向けて」

沢田佳史氏(スポーツ庁地域スポーツ推進係 前・静岡県掛川市教育委員会)

- ・R5～R7年度までが改革推進期間となっており、来年度が最終の年度となっている。
- ・R5年度は339市区町村、R6年度は510市区町村の皆様の実証事業に取り組んでいた。

方向性・目指す姿

- ✓地域の実情に応じた持続可能で多様なスポーツ環境を整備し、多様な体験機会を確保。
- ✓少子化の中でも、将来にわたり我が国の子供たちがスポーツに継続して親しむことができる機会を確保。学校の働き方改革を推進し、学校教育の質も向上。
- ✓自己実現、活力ある社会と絆の強い社会創り。部活動の意義の継承・発展、新しい価値の創出。
- ✓子供や大人、高齢者や障害者の参加・交流を推進する地域スポーツ活動の中に部活動を取り込む。ウェルビーイングの実現、まちづくりの推進。
- ✓「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識の下、地域の実情に応じたスポーツ活動の最適化を図り、体験格差を解消。



NIIGATA地域移行(地域展開)シンポジウム

(令和7年1月24日朱鷺メッセにて)

「全国の進捗状況・来年度に向けて」

- 令和6年度時点において全部部活動に対する地域スポーツクラブ活動の割合は24%、4分の1にも満たない。令和7年度37%、令和8年度68%と半数以上地域クラブ活動へ

2-1. 休日の部活動の地域連携・地域移行の動向 (部活動数)

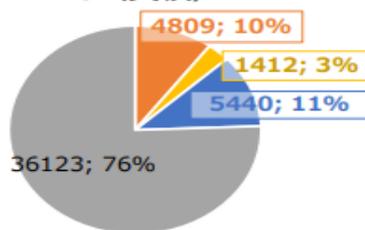
令和5年度以降、地域移行(地域スポーツクラブでの活動)に取り組む部活動数(※1)は増加している。令和7年度までには、23,308部活動(54%)が地域連携または地域移行(地域スポーツクラブでの活動)を予定している。

※休日の部活動の実施に当たり、各類型で実施した/実施予定の部活動数を調査。

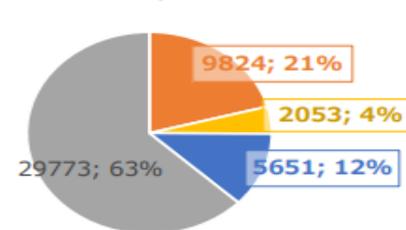
◆部活動数

- 地域移行(地域スポーツクラブ)
- 地域連携(合同部活動)
- 地域連携(部活動指導員の活用)
- 学校部活動

R5(実績)



R6

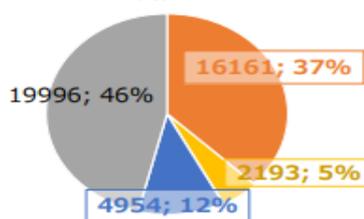


地域連携または地域移行を実施する部活動数：
11,661部活動(24%)

17,528部活動
(37%)

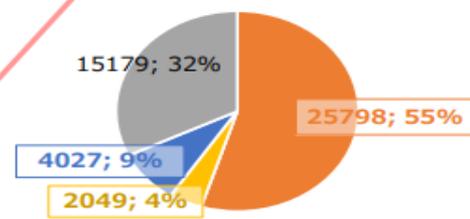
- ※1 各年度の地域移行の部活動数は、前年度までに地域移行を完了した部活動数も含む
- ※2 未定等により、年度ごとに回答率が異なるため、合計値は一致しない
- ※3 調査票では、令和5年度～令和8年度の他、地域移行(地域スポーツクラブ)は「令和9年度以降」「時期未定」、地域連携・学校部活動は「時期未定」の回答欄を設けたため、令和6年度以降の集計には一部の部活動は含まれない

R7



23,308部活動
(54%)

R8



31,874部活動
(68%)

NIIGATA地域移行(地域展開)シンポジウム

(令和7年1月24日朱鷺メッセにて)

「全国の進捗状況・来年度に向けて」

- ・地域移行を**地域展開**に、学校内で運営されてきた活動を広く地域に開き、**地域全体で支えていく**、また**新たな価値**を創出し、より**豊かで幅広い活動を可能**とするというコンセプトである。

「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」中間とりまとめ 概要①

※下記の内容は、公立中学校等の生徒を主な対象としたもの

1. 改革の理念及び基本的な考え方等

(1) 改革の理念

- 急激な少子化が進む中でも、**将来にわたって生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実**するのが改革の主目的。
(地理的要因や障害の有無等に関わらず、生徒が希望する活動を主体的に選択できる環境の整備を図ることが重要)
※改革を実現するための手法を考える際には、**学校における働き方改革の推進**を図ることや**良質な指導等を実現**することについても考慮。
- 学校単位で部活動として行われてきたスポーツ・文化芸術活動を、**地域全体で関係者が連携して支え、生徒の豊かで幅広い活動機会を保障**。
- 生涯にわたってスポーツや文化芸術と豊かに関わる力を身につけることを含めた、スポーツ・文化芸術の役割や意義も尊重する必要。
- スポーツ基本法、文化芸術基本法で、地方公共団体による「地方スポーツ推進計画」、「地方文化芸術推進基本計画」の策定が努力義務とされていることも踏まえ、各地域においてスポーツ・文化芸術施策を総合的に推進する中で、部活動改革も計画的に進められることを期待。

(2) 地域クラブ活動の在り方

- 地域クラブ活動においては、**学校部活動が担ってきた教育的意義を継承・発展**させつつ、**新たな価値を創出**することが重要。
＜新たな価値の例＞
生徒のニーズに応じた多種多様な体験（1つの競技種目等に専念しないマルチスポーツや、スポーツと文化芸術の融合、レクリエーション的な活動等を含む）、生徒の個性・得意分野等の尊重、学校等の垣根を越えた仲間とのつながり創出、地域の様々な人や幅広い世代との豊かな交流、適切な指導者による良質な指導、学校段階にとらわれない継続的な活動（引退のない継続的な活動）及び地域クラブの指導者による一貫的な指導
- 地域クラブ活動の具体的な実施形態や活動内容等は多様な形があり得る。地域の実情等にあった望ましい在り方を見出ししていくことが重要。
- 民間のクラブチーム等との区別や質の担保等の観点から、**地域クラブ活動の定義・要件や認定主体、認定方法等**を国として示す必要。

(3) 地域全体で連携して行う取組の名称（「地域移行」の名称変更等）

- 上記の理念や地域クラブ活動の在り方等をより的確に表すため、「**地域移行**」という名称は、「**地域展開**」に変更。
【コンセプト】①学校内で運営されてきた活動を広く地域に開き、地域全体で支えていく。 + ②**新たな価値を創出し、より豊かで幅広い活動を可能とする**。
※学校部活動から地域クラブ活動に転換した場合であっても、地域クラブ活動の実施に当たって、学校施設の活用等、学校との連携は図る必要。

(4) 改革を進めるに当たっての基本的な考え方

- 上記の理念等を幅広い関係者で共有しながら地域展開等に取り組むこと。 ●具体的手法は地域の実情等に応じた多様な選択肢を認めること。
- 活動の場を増やすだけでなく、**活動内容の質的向上**も図ること。 ●**対面とデジタルを最適に組み合わせる**など新たな手段も最大限活用すること。
- 受益者負担と公的負担とのバランス等の費用負担の在り方を検討し、**国・都道府県・市区町村が支え合いながら適切な支援を行うこと**。

NIIGATA地域移行(地域展開)シンポジウム

(令和7年1月24日朱鷺メッセにて)

「全国の進捗状況・来年度に向けて」

- ・休日についてはR8年度からR13年度の6年間を改革実行期間として位置づけ、この改革実行期間の中で**原則全ての学校の部活動において地域展開の実現**を目指すものとしている。
- ・現時点で着手していない地方公共団体においてもR8年度から10年度の**前期の間に休日の地域展開に着手**することが示されている。

3. 今後の改革の方向性

- **地方公共団体が幅広い関係者の理解と協力の下、平日・休日を通じた活動を包括的に企画・調整**し、多様な選択肢の中から**地域の実情等**にあった望ましい在り方を見出し、改革の方針を決定することが重要（生徒・保護者等への丁寧な説明も必要）。
※休日の地域展開とともに、平日の地域展開もあわせて、できるところから取り組むことなどもあり得る。

改革の進め方	<ul style="list-style-type: none">・休日については、次期改革期間内に、原則、全ての学校部活動において地域展開の実現を目指す。 ※地域の実情等を踏まえつつ、できる限り前倒しでの実現を目指すことが望ましい。 ※中山間地域や離島など特殊な事情により地域展開に困難が伴う場合等には、国としても、きめ細かなサポートを通じて地域展開を後押し。それでも地域展開が困難な場合には、当面、部活動指導員の配置等を適切に実施。・平日については、各種課題を解決しつつ更なる改革を推進。まずは、国において、地方公共団体が実現可能な活動の在り方や課題への対応策の検証等を行うとともに、地方公共団体において地域の実情等に応じた取組を進める。
次期改革期間	<p>「改革実行期間」(前期：令和8～10年度 ⇒ 中間評価 ⇒ 後期：令和11～13年度)</p> <ul style="list-style-type: none">※現時点で着手していない地方公共団体においても、前期の間に休日の地域展開等に着手。※平日の改革については、前期において活動の在り方や課題への対応策等の検証を行った上で、中間評価の段階で改めて取組方針を定め、更なる改革を推進。
費用負担の在り方等	<ul style="list-style-type: none">・地方公共団体において、地域の実情等に応じて安定的・継続的に取組が進められるよう、受益者負担と公的負担とのバランス等の費用負担の在り方等を検討する必要。・公的負担については国・都道府県・市区町村で支え合うことが重要。・企業版ふるさと納税やガバメントクラウドファンディングをはじめとした寄附等の活用等、新たな財源の確保も有効に組み合わせていくことが重要。・家庭の経済格差が生徒の体験格差につながることはないよう、経済的に困窮する世帯の生徒への支援については確実に措置を行う必要。

※改革を円滑に進めるためには、地方公共団体とともに、**総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、体育・スポーツ協会、競技団体、文化芸術団体、社会教育施設、民間事業者、大学、地域の中学校体育連盟、スポーツ推進委員等と適切に役割分担を行い、幅広い関係者が連携・協働しながら一体となって取組を進める必要**。

NIIGATA地域移行(地域展開)シンポジウム

(令和7年1月24日朱鷺メッセにて)

「全国の進捗状況・来年度に向けて」

【令和8年度以降の見据えた準備について】

①地域クラブ活動の財源の確保について

- ・地域クラブの創設に係るイニシャルコスト(初期費用)については自治体が負担、ランニングコスト(運営費用)については受益者の負担を中心で賄う。
- ・全てを公費で賄うのではなく、運営や活動に必要な一部を受益者である家庭に負担してもらうことは持続的な地域クラブの運営には必要である。

②経済的困窮世帯への支援

- ・個人情報にも配慮するため、学校と地域クラブが行政と連携していく。
- ・今後の実証事業においても経済的困窮世帯への参加費用負担支援についても十分に検討する事。

(※参考:納税型クラウドファンディング茨城県守谷市)

③地域クラブ活動の要件の明確化

- ・実行会議の中間とりまとめにおいて国として地域クラブ活動定義要件や認定等を示していく必要があるという内容がふくまれている。

(※参考:北海道北見市、新潟県小千谷市、兵庫県姫路市(姫カツ))

NIIGATA地域移行(地域展開)シンポジウム

(令和7年1月24日朱鷺メッセにて)

「ビジョンの明確化について」

- ・目指す形をみんなで共有しているか。これが一番の課題である。
- ・最終的に目指す形は「子供から大人までのチーム」
- ・今の部活動について?中体連の大会について?ではなく、まずは皆さんが**目指すゴール**についての共有をすること。

「指導者の量と質の確保について」

- ・うまくいっている自治体は**コミュニティ協議会、青少年育成協議会**といった**地域の中**にある。
- ・教育的な支援、サポーター、競技の専門とそれぞれあるが、実際には**競技の専門指導は毎日やらなければならないのか。見守り隊、教育的な支援を充実させていく事がそれよりも重要**である。

「運営体制の整備について」

- ・運営団体に求められる役割や業務内容は多岐にわたる。そのすべてに対応するには、**法人格を有し、常勤スタッフがいるような形**が望ましい。
- ・例えば**税務スキルをアップするためのセミナー、謝金の源泉徴収の手続き**を運営団体と自治体との相互理解が必要である。

NIIGATA地域移行(地域展開)シンポジウム

(令和7年1月24日朱鷺メッセにて)

「ビジョンの明確化について」

- ・①目指すゴール像の明確化と共有②中学生(小学生含)のスポーツ・文化芸術の目的の理解と共有、本当の意味で地域移行の目的であるスポーツ文化の目的を明確にする、広報していく事が課題である。(国の発信、自治体の決断)
- ・日本のスポーツの在り方そのものを大人がみんな理解すること。子供が活動できる、大人が見守るという感覚になれば勝利はその次の段階である。

「子どもたちを部活動改革の真ん中に」

- ・ビジョンの策定、明確化も大事だが、今の部活動に子どもたちが本当に満足しているか。子供たちが不在の中で進んでいるこの改革が問題である。
- ・生徒が主体的に行う活動、適切な活動時間を週8時間に、部活動を良いものにしてから地域へ展開する。(佐賀モデル)
- ・今の学校の状況を正確に、子どもたちの気持ちをしっかりと把握しながら変えていく必要がある。

NIIGATA地域移行(地域展開)シンポジウム

(令和7年1月24日朱鷺メッセにて)

ワークショップ

- ①「部活動地域移行の**成果**と課題は何か？」
- ②課題解決のための具体的なアイデア

成果について

参加グループ:新潟県村上市、見附市、妙高市、山形県寒河江市

- ・地域社会の活性化 ・話し合う機会が増えた。
- ・中学生を特別扱いするのでなく、幼児から大人、高齢者それぞれの役割が果たされる。
- ・教員の働く環境の改善⇒志願者の増⇒優秀な教員の確保⇒教育の質の向上
- ・地域クラブの実施主体において、9つの登録要件の確定、理解が進んだ。
- ・中学生を受け入れる地域活動団体が42団体に増えた。
- ・子どもたちの多様な参加
- ・誰もがやりたい活動ができる環境が実現
- ・学校とクラブの良好な協力体制の構築
- ・継続的なスポーツへの参加
- ・様々なスポーツに触れることでの新たな可能性

NIIGATA地域移行(地域展開)シンポジウム

(令和7年1月24日朱鷺メッセにて)

ワークショップ

- ①「部活動地域移行の成果と課題は何か？」
- ②課題解決のための具体的なアイデア

課題について

参加グループ:新潟県村上市、見附市、妙高市、山形県寒河江市

- ・令和8年度以降の休日だけでなく**平日の活動**について
- ・学校とクラブの協力体制の構築 ・教員の**兼職兼業が進まない**
- ・**交通機関、移動手段の確保(1時間)、保護者の送迎** ・**指導者不足**
- ・万が一事故があったときの責任について ・**財源について、保護者の理解促進**
- ・もっと練習させろ、絶対勝て!**保護者の意識** ・活動場所の確保とルール
- ・指導者バンクの活用の困難さ ・**教員の理解不足(部活動との違いの理解等)**
- ・委託先からの不満、苦情処理
- ・学校施設をより利用しやすい形へ(既存の団体が優先)

課題解決に向けたアイデア

- ・**中体連の大会なし** ・**小学校への説明** ・うまくいっている事例の詳細について
- ・**自主財源の確保** ・**受益者負担を段階的に上げる**

NIIGATA地域移行(地域展開)シンポジウム

(令和7年1月24日朱鷺メッセにて)

【参加者(各自治体)が抱えるいちばんの課題は何か?】パネリストの回答

①「財源の確保」

- ・指導者の謝金について、ある程度払ってもらえるであろう参加費の設定
- ・保護者による財源の確保、当事者意識(地元の祭り、グッズ販売)
- ・地元企業からの協賛、地元企業への後押しとしてネーミングライツに取り組む企業との連携協力体制

②「運営体制の整備」「指導者の量と質の確保」

- ・誰もが安全・安心で取り組める制度設計
- ・国も認定制度の定義や、クラブへの支援、指導者に何かあった際の処分規定を分析

③「理解促進に向けた効果的な広報」

- ・校長のリーダーシップ、地域の中の育成協議会、コミュニティ協議会、自治会などの様々な団体等に告知(教頭会・中体連)
- ・とにかく「対話」を繰り返していく。動くことで見える様々な課題

NIIGATA地域移行(地域展開)シンポジウム

(令和7年1月24日朱鷺メッセにて)

おわりに(パネリストより)

- ・子どもたちがマラソン大会を企画するといった、子どもたちが自分たちで主体的にスポーツに取り組むことは、**町づくり**につながる。
- ・**子どもたちの可能性を引き出す**。(子供たちにこれはできないという視点で見ない) 弥彦村では**中学生の代表3名が部活動地域移行のメンバーとして参加**している。
- ・悪いところばかりでなく**良いところにも目**を向ける。これを発信する。例えば生徒の選択肢が増えるといったことなど。
- ・今まで誰もやったことのない取組、**失敗したらもう一度やり直す**ぐらいの気持ちで、全部に配慮して全部クリアは難しい。
- ・すべて行政できるわけではない。互いの**役割分担を明確にし、互いに認め合う**ことで気持ちよくできる。